令 和 5 年 度　事　業　報　告　書

Ⅰ　経営状況の概要

１　一般財団法人移行後の動き

平成20年（2008年）12月１日に公益法人制度改革関連法が施行され、旧制度の特例民法法人である財団法人は、５年以内に新制度へ移行しなければならないことになった。

シティサポートよこすかは、「横須賀市及びその周辺地域において、地域住民の暮らしの向上と健康の増進を図るため、都市諸施設及び都市環境の整備に関する公益事業及び収益事業等を行い、もってこの地域の発展に寄与すること」を目的として、平成24年（2012年）５月21日付けで一般財団への移行認可を神奈川県から受けた。

一般財団又は一般社団への移行認可を受ける法人は、「従来の法人が税法上の優遇などにより内部留保した財産（公益目的財産）を公益の目的のために支出して零にする計画（公益目的支出計画）を作成しなければならない。」と定められている。

シティサポートよこすかは、財団法人横須賀市都市施設公社から一般財団法人へ移行する際、公益目的財産額に相当する約 37億2,600万円を公益目的事業である「実施事業等会計」で支出することにより、13年間（年　約２億8,700万円）で零にする計画を定め平成24年（2012年）９月19日付けで神奈川県から認可を受けた。

その後、体育会館や運動公園、自転車等駐車場等の指定管理事業、ポートマーケット運営等の地産地消事業、駐車場等の運営管理事業などを展開してきた。

しかしながら、ポートマーケット運営事業をはじめ収益事業における赤字が累積し、法人全体として公益目的支出（実施事業等会計）を抑制せざるを得ない状況が続いていた。公益目的支出を確実に遂行するためには収益事業を黒字化し、これを維持する必要がある。

そこで、平成30年度（2018年度）に新たに経営方針・経営計画を策定し、これまで展開してきた事業の枠組みを大きく見直し、経営基盤の確立を目指すこととした。

経営基盤の改善を前提に公益目的支出に新たなスポーツ・文化振興事業の実施、市への寄附（特定寄附）などを位置付け、年間支出予定額を変更（年　約１億円）し、令和元年（2019年）９月１日付けで神奈川県から公益目的支出計画の正式な変更認可を受けた。

変更認可後初めての決算である令和元年度（2019年度）は、公益目的支出計画を達成するとともに収益事業等についても黒字に転換した。令和２年度（2020年度）は、コロナ禍により体育会館など多くの指定管理施設の運営において、施設の閉鎖や開館時間の短縮などの多大な影響を受けた。

その中において令和元年度（2019年度）に続き収益事業等は約 １億2,600万円余の黒字となり、公益目的支出計画についても約 １億4,500万円余と目標（約１億円）を大きく上回って達成することができた。それに伴い財団として初めて法人全体の黒字化（約 960万円）を達成することができたのは特筆すべきである。

令和３年度（2021年度）は、ポートマーケットのリニューアル工事に伴う固定資産除却損等の計上や令和２年度（2020年度）分のコロナ禍による指定管理料の精算などの多額の経常外損失（△約１億5,600万円）があり、法人全体の収支である当期一般正味財産増減額はマイナス決算となった。

一方、本業の収支である評価損益等調整前当期経常増減額は、引続きコロナ禍による施設運営や事業の実施に影響を受けながらも、市役所北口駐車場や指定管理事業等において収益事業等の利益（ 約１億4,300万円）を確保した結果、令和２年度（2020年度）を上回る当期経常利益（ 約4,600万円）を計上することができた。また、公益目的支出計画も変更認可以降、３年連続で目標を上回る支出（約１億1,200万円）をすることができた。

令和４年度（2022年度）は、３年続いたコロナ禍も徐々に平常を取り戻したことから感染対策を十分に行いつつ公益目的事業である CSYスポーツ・文化振興事業を積極的に展開した。また、延期となっていた「いちご　よこすかポートマーケット」も、新たな運営事業者と定期建物賃貸借契約等を締結し、10月28日にリニューアルオープンした。

経営面では、世界情勢を反映して光熱費など諸物価の高騰や賃金の上昇があったものの、市役所北口駐車場事業が前年度を上回る増収増益となったことや、ポートマーケット事業が黒字となったことなどにより、評価損益等調整前当期経常増減額が 約7,200万円の黒字、当期一般正味財産増減額が 約3,400万円の黒字となり、一般財団に移行後、最大の黒字決算となった。

令和５年度（2023年度）は、コロナ感染症の感染法上の位置付けが２類から５類に移行したことで、公益目的事業である CSYトップアスリート等指導セミナーでは、新たに９事業を加えた計25事業を実施し、延べ 9,100名を超える参加者の方々に楽しんでいただくことができた。

経営面では、市役所北口駐車場の収益が昨年に引続き増収となるなど、本業の収支である当期経常増減額は1,500万円余の黒字を達成した。

しかし、投資有価証券の売却に伴う評価益の精算（投資有価証券評価損　約△7,186万円）により当期一般正味財産増減額はマイナス決算となった。

※投資有価証券の売却に伴う評価益の精算について

平成26年３月に購入した利付国債（20年）７億円は、その前年に「満期保有目的債券」を途中売却していたことから、「満期保有目的債券」として購入することはできず、「その他目的債券」として保有したため、毎年度末の時価評価額を貸借対照表に表示するとともに、前年度との増減額を正味財産増減額に取り込んできた。その結果、令和４年度末までに約7,186万円の評価益が生じていた。

令和６年３月に当該国債を売却した際、評価益を精算する一方で、売却による利益 約4,614万円を確保した。また、購入から売却までの10年間に得た利息収入約１億472万円を加えると、当該国債の運用に伴う利益は、総額で約１億5,086万円（年利回り約2.16%）となった。

（単位　千円）

	時価評価額	評価損益	利息収入（年1.50%）
購入価額　①	701,288		
2013（平成25）	699,440	△1,848	0
2014（平成26）	752,150	52,710	10,224
2015（平成27）	841,750	89,600	10,500
2016（平成28）	818,440	△23,310	10,500
2017（平成29）	828,660	10,220	10,500
2018（平成30）	840,840	12,180	10,500
2019（令和元）	821,380	△19,460	10,500
2020（令和２）	813,470	△7,910	10,500
2021（令和３）	797,930	△15,540	10,500
2022（令和４）　②	773,150	△24,780	10,500
2023（令和５）　令和６年２月末	(751,870)	(△21,280)	10,500
評価益（②－①＝③）	71,862		
利息収入合計　④			104,724
売却価額　⑤	747,432		
売却益（⑤－①＝⑥）	46,144		
評価損　⑦	△71,862		
運用益	評価益③＋利息収入④＋売却益⑥＋評価損⑦		
	150,868		

※2023（令和５）年度の（　　　）内の金額は、令和６年２月末の時価評価額と評価損益を参考記載

2　本業である当期経常増減額は４年連続黒字を達成

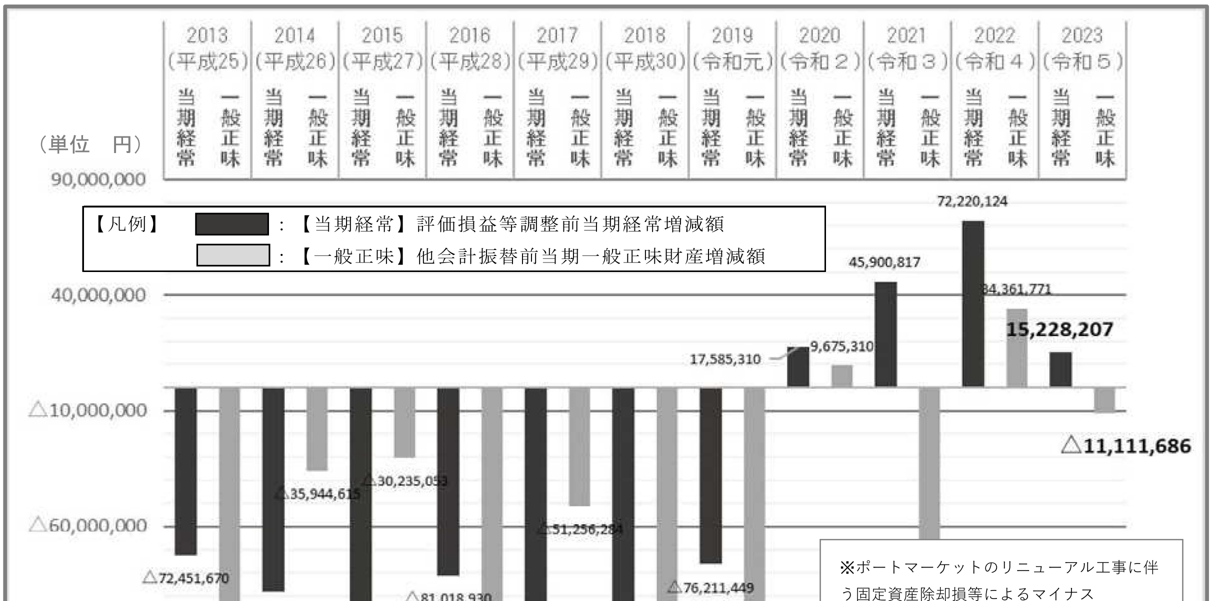
平成24年（2012年）６月に一般財団法人に移行したシティサポートよこすかは、平成25年（2013年）３月から運営を始めたポートマーケット事業の赤字などが影響し、一般財団法人に移行以来、法人全体として赤字の状況が続いていた。前述のとおり、平成30年度（2018年度）に新たに経営方針を策定し経営改善に取り組み、令和３年度（2021年度）決算に公益目的支出を除く収益事業等（その他会計＋法人会計）を「黒字」にするとした経営計画の目標を令和元年度（2019年度）決算で達成した。

また、令和２年度決算においては、コロナ禍において固定費の圧縮、さらなる業務の見直しにより、一般財団法人移行以来初めて法人全体の収支で黒字化を達成した。

令和３年度決算においては、経常外費用としてポートマーケットのリニューアル工事に伴う固定資産除却損等（約△１億3,400万円）の計上により法人全体の収支はマイナスとなったが、本業の収支を示す当期経常増減額は前年度を上回る利益（約4,600万円）を計上し、コロナ禍にもかかわらず堅調な事業運営を行った。

令和４年度決算においては、市役所北口駐車場の増収増益やポートマーケットの黒字化など、より一層の経営改善に取り組んだ結果、一般財団法人移行後、最大の黒字を計上した。

<u>令和５年度決算においては、投資有価証券の評価損（約△7,186万円）により当期一般正味財産増減額はマイナスとなったが、本業である評価損益等調整前当期経常増減額は４年連続黒字となった。</u>



（単位　円）

		（公益目的支出） ①実施事業等会計 簿価ベース ［時価ベース］	②収益事業等 （その他会計＋法人会計）	当期収支 ①＋②
2013 （平成25） 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△41,037,151	△31,414,519	△72,451,670
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△41,037,151	△86,846,519	△127,883,670
2014 （平成26） 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△37,883,218	△50,157,775	△88,040,993
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△37,883,218	1,938,603	△35,944,615
2015 （平成27） 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△30,684,182	△86,973,766	△117,657,948
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△30,684,182 （△30,684,182）	△654,944,979 （449,129）	△685,629,161 （△30,235,053）
2016 （平成28） 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△44,793,771	△36,225,159	△81,018,930
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△44,793,771	△73,839,696	△118,633,467
2017 （平成29） 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△59,528,487	△66,454,071	△125,982,558
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△35,601,996	△15,654,288	△51,256,284
2018 （平成30） 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△57,236,821	△83,166,671	△140,403,492
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△56,382,332	△69,558,198	△125,940,530
2019 （令和元） 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△115,435,001	39,223,552	△76,211,449
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△115,435,001 ［△139,189,268］	19,763,548	△95,671,453
2020 （令和２） 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△108,685,711	126,271,021	17,585,310
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△108,685,711 ［△145,695,846］	118,361,021	9,675,310
2021 （令和３） 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△97,485,627	143,386,444	45,900,817
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△86,267,175 ［△112,493,971］	△39,989,780	△126,256,955
2022 （令和４） 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△102,759,649	174,979,773	72,220,124
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△102,759,649 ［△102,759,649］	137,121,420	34,361,771
2023 （令和５） 決算	**評価損益等調整前当期経常増減額　※１**	**△106,574,893**	**121,803,100**	**15,228,207**
	他会計振替前当期一般正味財産増減額　※２	**△106,562,622 ［△106,562,622］**	**95,450,936**	**△11,111,686**

※１．評価損益等調整前当期経常増減額：経常収益計－経常費用計

※２．他会計振替前当期一般正味財産増減額：評価損益等調整前当期経常増減額＋評価損益等計＋当期経常外増減額

３．平成30年度に策定した第１次経営計画では、令和３年度決算に評価損益等調整前当期経常増減額から公益目的支出を除いた収益事業等が０円以上となる「黒字」にすることを目標とした。また、令和４年度に策定した第２次経営計画では、公益目的支出が１億円以上、収益事業等が１億円以上で法人全体で「黒字」にすることを目標とした。

４．特定寄附・現物寄附の土地は、正味財産増減計算書では帳簿価額（簿価ベース）で算定し、公益目的支出計画では固定資産税評価額（時価ベース）で算定する。

５．平成27年度は、小川町駐車場売却損（△655,394,108円）を含む。
（△30,235,053円は小川町駐車場売却損を除いた額で、グラフはこの数字を用いている。）

６．一般財団法人移行後、財団法人横須賀市都市施設公社時の経理を含まない平成25年度以降の表としている。

３　５年続けて収益事業等の黒字化を実現

平成30年度（2018年度）に策定した第１次経営計画では、令和３年度（2020年度）決算において収益事業等を「黒字」にすることを目標とした。

黒字とは評価損益等調整前当期経常増減額から公益目的支出（実施事業等会計）を除いた収益事業等（その他会計＋法人会計）が0円以上となることである。

事業の内容を精査し臨んだ令和元年度決算は、収益事業等が 3,900万円余と黒字に転換するとともに、経営計画の目標を初年度に達成した。

その後、収益事業等は令和２年度（2019年度）、令和３年度（2020年度）と、それぞれ前年度を上回る利益を計上した。そして、令和４年度（2022年度）決算では、更に利益を伸ばし約 １億7,400万円の黒字を達成した。その主な要因は市役所北口駐車場事業の１億2,400万円余の利益に加え、ポートマーケット事業の約2,100万円の黒字などであった。

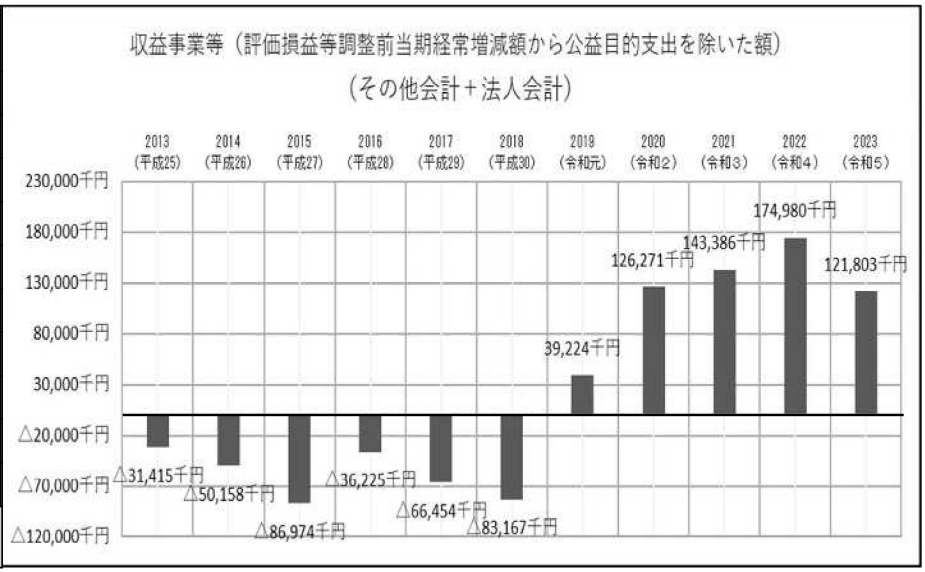
令和５年度は、令和４年度には収入となったポートマーケットのリニューアル工事に伴う消費税の還付金（約2,700万円）がなかったことや、プロパー職員（５名）の定年退職等に伴う退職手当の支給など、ここ数年と比較すると利益を圧縮する要因があったものの、市役所北口駐車場事業や体育会館事業などで好調を堅持したことで１億2,000万円を超える黒字となった。

５年連続で収益事業等の黒字化を実現することができ、公益目的支出（約１億100万円）を確実に実施するための財源確保ができている。

	評価損益等調整前当期経常増減額（ア）	公益目的支出（実施事業等会計）（イ）	収益事業等（評価損益等調整前当期経常増減額から公益目的支出を除いた額）（アーイ）
2023（令和５）年度 決算	15,228,207円	△106,574,893円	**121,803,100円**

○収益事業等の推移（法人会計含む）

収益事業等（評価損益等調整前当期経常増減額から公益目的支出を除いた額）	
2013（平成25）決算	△31,414,519円
2014（平成26）決算	△50,157,775円
2015（平成27）決算	△86,973,766円
2016（平成28）決算	△36,225,159円
2017（平成29）決算	△66,454,071円
2018（平成30）決算	△83,166,671円
2019（令和元）決算	39,223,552円
2020（令和２）決算	126,271,021円
2021（令和３）決算	143,386,444円
2022（令和４）決算	174,979,773円
2023（令和５）年度決算	**121,803,100円**



４　公益目的支出計画は５年連続で年間目標を達成

（１）公益目的支出計画については、令和元年（2019年）９月に「公益目的事業、市への寄附（特定寄附）、継続事業」を３本の柱とし、年間支出予定額の変更（年 約２億8,700万円→年　約１億円）、計画期間の変更（13年間→41年間）の認可を受けた。

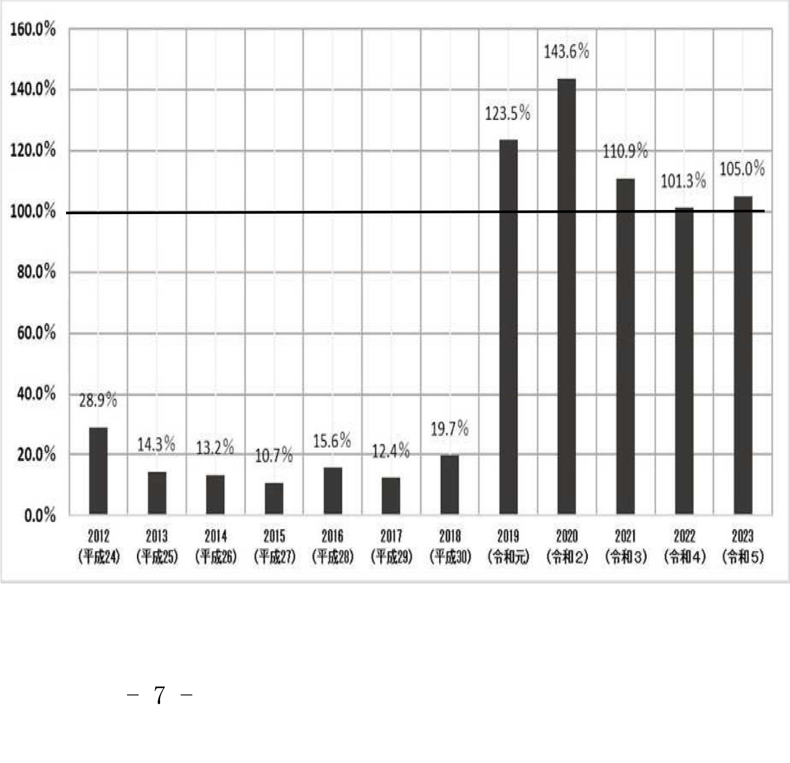
令和２年度（2020年度）及び３年度（2021年度）は、コロナ禍により大規模な集客を図る事業を開催することとはできなかったが、派遣型の事業やリモートによるコンサート、観客数を制限したコンサートを開催したり、感染対策を十分行ってスポーツ教室を開催するなど計画を上回る公益目的事業を展開した。

令和４年度（2022年度）は、コロナ禍で３年間中止となっていたスポーツ能力測定会を、支出計画変更後初めて開催することができた。また、スポーツ・文化振興事業をより積極的に展開し、リニューアルオープンした”よこすかポートマーケット”では、トップアーティスト指導セミナーの一環として、地元にゆかりのある音楽家が音楽家が音楽文化の醸成を図り、音楽の素晴らしさを伝える Sunset Live（サンセットライブ）を開催した。

令和５年度（2023年度）は、コロナ感染症の感染法上の位置付けが２類から５類に移行したことで、 サンセットライブやコンサートをはじめとしたスポーツ・文化振興事業を前年度より更に積極的に展開した。特に、CSYトップアスリート等指導セミナーでは「アンプティサッカー体験会」、「ポートマーケットｅスポーツフェスタ」のほか池上コミュニティセンターやしょうぶ園でのコンサートなど新たに９事業を実施するとともに、横須賀市に対しても５年連続1,000万円超の現金寄附を実施し、公益目的支出計画の年間目標を達成した。

○公益目的支出計画の推移

	公益目的支出額	年間計画額に対する執行率
2012（平成24）決算	82,946千円	28.9%
2013（平成25）決算	41,037千円	14.3%
2014（平成26）決算	37,883千円	13.2%
2015（平成27）決算	30,684千円	10.7%
2016（平成28）決算	44,794千円	15.6%
2017（平成29）決算	35,602千円	12.4%
2018（平成30）決算	56,382千円	19.7%
2019（令和元）決算	139,189千円	123.5%
2020（令和２）決算	145,696千円	143.6%
2021（令和３）決算	112,494千円	110.9%
2022（令和４）決算	102,760千円	101.3%
2023（令和５）決算	**106,563千円**	**105.0%**



（２）公益目的支出計画執行状況表

●公益目的支出額

当初計画額　　年間目標　約286,735千円（平成24年６月１日から実施）
変更計画額　　年間目標　　101,445千円（令和元年９月１日から実施）
　　　　　　　但し、令和元年度は年間目標　112,678千円

※市への現物寄附（土地）は令和元年度から３年度で完了し、４年度以降はスポーツ・文化振興事業など公益目的事業を強化して公益目的支出計画を実施していく。

【変更認可前】公益目的財産額：3,725,848,851円（Ａ）

年次	年度	計画			実績			
		公益目的支出額（円）（ア）	公益目的財産残額（円）	支出累計額に対する執行率(%) (ｱ)/(A)	公益目的支出額（円）（イ）	当年度計画額に対する執行率(%) (ｲ)/(ｱ)	公益目的財産残額（円）	支出累計額に対する執行率(%) (ｲ)/(A)
1	H24	286,735,163	3,439,113,688	7.7	82,946,348	28.9	3,642,902,503	2.2
2	H25	286,735,163	3,152,378,525	15.4	41,037,151	14.3	3,601,865,352	3.3
3	H26	286,735,163	2,865,643,362	23.1	37,883,218	13.2	3,563,982,134	4.3
4	H27	286,735,163	2,578,908,199	30.8	30,684,182	10.7	3,533,297,952	5.2
5	H28	286,735,163	2,292,173,036	38.5	44,793,771	15.6	3,488,504,181	6.4
6	H29	286,735,163	2,005,437,873	46.2	35,601,996	12.4	3,452,902,185	7.3
7	H30	286,735,163	1,718,702,710	53.9	56,382,332	19.7	3,396,519,853	8.8
		2,007,146,141	1,718,702,710	53.9	329,328,998	16.4	3,396,519,853	8.8

【変更認可後】公益目的財産残額：3,396,519,853円（Ｂ）

年次	年度	計画			実績			
		公益目的支出額（円）（ウ）	公益目的財産残額（円）	支出累計額に対する執行率(%) (ｳ)/(B)	公益目的支出額（円）（エ）	当年度計画額に対する執行率(%) (ｴ)/(ｳ)	公益目的財産残額（円）	支出累計額に対する執行率(%) (ｴ)/(B)
8	R1	112,678,000	3,283,841,853	3.3	139,189,268	123.5	3,257,330,585	4.1
9	R2	101,445,000	3,182,396,853	6.3	145,695,846	143.6	3,111,634,739	8.4
10	R3	101,445,000	3,080,951,853	9.3	112,493,971	110.9	2,999,140,768	11.7
11	R4	101,445,000	2,979,506,853	12.3	102,759,649	101.3	2,896,381,119	14.7
12	R5	101,445,000	2,878,061,853	15.3	106,562,622	105.0	2,789,818,497	17.9
13～40	R6～33	2,840,460,000	37,601,853	98.9	―	―	―	―
41	R34	37,601,853	0	100.0	―	―	―	―
		3,396,519,853	0	100.0	606,701,356	―	2,789,818,497	17.9

【累計】公益目的財産額：3,725,848,851円（Ａ）

年次	年度	計画			実績			
		公益目的支出額（円）（オ）	公益目的財産残額（円）	支出累計額に対する執行率(%) (ｵ)/(A)	公益目的支出額（円）（カ）	当年度計画額に対する執行率(%) (ｶ)/(ｵ)	公益目的財産残額（円）	支出累計額に対する執行率(%) (ｶ)/(A)
1～12	H24～R5	847,786,998	2,878,061,853	22.8	936,030,354	―	2,789,818,497	25.1

（３）令和５年度　公益目的事業の内訳

ア　**〔公益目的事業〕**CSYスポーツ・文化振興事業（約42,546千円）

（ア）CSYスポーツ能力測定事業

・スポーツ能力測定会（８月３日）

（イ）CSYトップアスリート等指導セミナー事業

〔トップアスリートセミナー〕

・ＢＭＸ学校訪問事業（５月８日・９日・11月13日・14日）
・かけっこ教室（６月25日・７月９日）
・アンプティサッカー体験会＆エキシビションマッチ（９月23日）
・姿勢測定イベント（10月９日）
・トップアスリート講師派遣事業（10月13日・11月24日・27日）
・大人のランニング教室（10月22日・11月26日）
・マリノスサッカースクール（11月３日）
・電動車椅子サッカー体験会（11月14日）
・横浜DeNAベイスターズ現役選手による野球教室（11月26日）
・横須賀市スポーツ協会講演会（１月21日）
・ポートマーケットeスポーツフェスタ（２月３日）
・ラジオ体操教室（２月25日）
・大人のサッカー教室（３月９日）

〔トップアーティストセミナー〕

・池上スプリングコンサート（４月１日）
・ポートマーケットSunset Live（４月14日ほか月２回）
・リズムトレーニング（４月15日ほか月２回）
・ポートマーケットグランドピアノ設置記念コンサート（７月28日）
・横須賀美術館コンサート（８月20日・11月18日・３月２日）
・トップアーティスト講師派遣事業（９月20日・11月29日・12月19日）
・中学校スクールバンド交流会（10月９日）
・池上コミセンまつりオータムコンサート（11月３日）
・ヴェルクまつりコンサート（11月23日）
・しょうぶ園クリスマスコンサート（12月３日）
・ヴェルクロビーコンサート（12月24日）
・横須賀市市民大学さきがけ講座（２月３日）

（ウ）CSYマリンスポーツイベント事業

・ウィンドサーフィン無料体験会（11月11日～14日）

（エ）CSYスポーツ・文化団体等支援事業

・CSY杯横須賀ユースサッカー大会（８月15日～17日）

・CSY杯グラウンドゴルフ大会（11月11日）

・秋山翔吾選手野球教室（12月16日）

・なでしこサッカーフェスタ（１月６日）

・「みんなの学校」上映会（３月９日）

（オ）スポーツ器具等整備促進事業

・卓球台等一式５セット寄附

・テント２張寄附

・テントウェイト24個寄附

・折り畳み椅子20脚寄附

イ　**〔市への寄附（特定寄附）〕**（約11,892千円）

（ア）現金寄附（10,000千円）

（イ）現物寄附（絵本・玩具、テーブル、リフレッシュチェアー
防犯カメラ、レコーダー、モニター）

ウ　その他（約52,125千円）

（ア）**〔公益目的事業〕**放置自転車対策及び自転車等駐車場事業

（イ）**〔継続事業〕**市役所北口駐車場事業

（ウ）**〔継続事業〕**中央斎場事業

令和５年度　公益目的支出額	
ア　CSYスポーツ・文化振興事業 （ア）CSYスポーツ能力測定事業 （イ）CSYトップアスリート等指導セミナー事業 （ウ）CSYマリンスポーツイベント事業 （エ）CSYスポーツ・文化団体等支援事業 （オ）スポーツ器具等整備促進事業	42,546千円
イ　市への寄付（特定寄附） （ア）現金寄附 （イ）現物寄附	11,892千円
ウ　その他 （ア）放置自転車対策及び自転車等駐車場事業 （イ）市役所北口駐車場事業 （ウ）中央斎場事業	52,125千円
合　　　　計	106,563千円

５　令和５年度　正味財産増減計算書会計別内訳表

（単位　円）

	科目	合計 （ア＋イ＋ウ）	（公益目的支出計画） 実施事業等会計 （ア）	収益事業等 （その他会計＋法人会計） （収益事業） その他会計 （イ）	収益事業等 （その他会計＋法人会計） 法人会計 （ウ）
1	経常収益計　①	1,429,672,913	238,747,234	1,163,378,742	27,546,937
2	経常費用計　④	1,414,444,706	345,322,127	1,045,781,142	23,341,437
3	評価損益等調整前 当期経常増減額 ⑤＝①—④	15,228,207	△106,574,893	117,597,600	4,205,500
				121,803,100	
4	評価損益等計　⑥	△71,862,000	0	0	△71,862,000
5	当期経常増減額 ⑦＝⑤＋⑥	△56,633,793	△106,574,893	117,597,600	△67,656,500
6	経常外収益計⑧	46,896,232	12,271	739,961	46,144,000
7	経常外費用計⑨	1,374,125	0	4	1,374,121
8	当期経常外増減額 ⑩＝⑧—⑨	45,522,107	12,271	739,957	44,769,879
9	他会計振替前 当期一般正味財産 増減額　⑦＋⑩	△11,111,686	△106,562,622	118,337,557	△22,886,621
				95,450,936	

◎（公益目的支出計画）　市役所北口駐車場事業、中央斎場事業

実施事業等会計：　ＣＳＹスポーツ能力測定事業、ＣＳＹトップアスリート等指導セミナー事業

ＣＳＹマリンスポーツイベント事業、ＣＳＹスポーツ・文化団体等支援事業

スポーツ器具等整備促進事業

放置自転車対策及び自転車等駐車場事業、特定寄附

◎（収益事業）　市役所北口駐車場事業、森崎ほか駐車場事業、職員駐輪場事業

その他会計：　物品販売事業、消防局庁舎事業、土地管理事業、ポートマーケット事業

体育会館事業、不入斗公園他事業、追浜公園他事業、田浦梅の里他事業

公園水泳プール事業、老人福祉センター事業、勤労福祉会館事業

猿島公園事業、池上コミュニティセンター事業

◎ 法人会計：　法人運営全般

１　安定性・収益性

■正味財産比率（正味財産／資産計）→　８８．２％

返済義務のない自己資本の割合から財務基盤の安定性を判断。

比率が高いほど借入金等の影響を受けない安定した財務基盤であるとの目安となる。

	令和５年度	令和４年度	令和３年度	令和２年度	令和元年度
正味財産	3,596,592千円	3,595,174千円	3,521,521千円	3,647,778千円	3,638,103千円
資産計	4,079,381千円	3,999,610千円	3,875,685千円	4,023,677千円	4,061,178千円
正味財産比率	88.2%	89.9%	90.9%	90.7%	89.6%

■経常比率（経常収益／経常費用）→　１０１．１％

経常外の事由を含まない収益・費用の比較により、財務の安定性を判断。

100%以上であれば、事業実施において黒字であることを示す。

	令和５年度	令和４年度	令和３年度	令和２年度	令和元年度
経常収益	1,429,673千円	1,424,340千円	1,344,476千円	1,257,260千円	1,262,530千円
経常費用	1,414,445千円	1,352,120千円	1,298,576千円	1,239,674千円	1,338,741千円
経常比率	101.1%	105.3%	103.5%	101.4%	94.3%

■総資産当期経常増減率（当期経常増減額／資産計）→　０．４％

総資本を活用し、どれだけの利益をあげたかを判断。

比率が高いほど効率的に利益をあげている目安となる。

	令和５年度	令和４年度	令和３年度	令和２年度	令和元年度
当期経常増減額	15,228千円	72,220千円	45,901千円	17,585千円	△76,211千円
資産計	4,079,381千円	3,999,610千円	3,875,685千円	4,023,677千円	4,061,178千円
総資産当期経常増減率	0.4%	1.8%	1.2%	0.4%	△1.9%

２　硬直度

■流動比率（流動資産／流動負債）→　５３８．３％

短期的な財務の健全性を判断。

一般的に流動比率が200%超であれば安全といわれる。

	令和５年度	令和４年度	令和３年度	令和２年度	令和元年度
流動資産	1,834,505千円	1,145,122千円	1,290,117千円	1,200,258千円	1,123,476千円
流動負債	340,814千円	212,619千円	175,707千円	194,922千円	236,967千円
流動比率	538.3%	538.6%	734.2%	615.8%	474.1%

■借入金比率（借入金残高／資産計）→　０％

借入金の資産に占める割合を判断。

	令和５年度	令和４年度	令和３年度	令和２年度	令和元年度
借入金残高	0円	0円	0円	0円	0円
資産計	4,079,381千円	3,999,610千円	3,875,685千円	4,023,677千円	4,061,178千円
借入金比率	0%	0%	0%	0%	0%

３　資金残高

■資金残高　→　18億7,700万円

令和５年度は、投資有価証券評価損（約△7,186万円）により当期一般正味財産増減額がマイナスとなったが、資金残高は当期経常利益（約1,523万円）に加え、投資有価証券の売却益（約4,614万円）や消防局庁舎売却代金未収金（5,864万円）の収入等により前年度に比べ約１億914万円増加した。

退職給付引当資産を除いても１年間の事業を実施するのに必要な資金を確保している。

	令和５年度	令和４年度	令和３年度	令和２年度	令和元年度
流動資産（※１）	1,834,505千円	1,145,122千円	1,290,117千円	1,190,130千円	1,105,160千円
流動負債（※２）	340,085千円	212,108千円	175,025千円	194,240千円	236,285千円
差引残高	1,494,420千円	933,014千円	1,115,092千円	995,890千円	868,875千円
退職給付引当資産	82,663千円	134,933千円	129,410千円	124,626千円	129,124千円
減価償却引当資産	―	―	―	125,207千円	125,207千円
投資有価証券（額面）	300,000千円	700,000千円	700,000千円	700,000千円	700,000千円
資金合計（※３）	1,877,083千円	1,767,947千円	1,944,502千円	1,945,723千円	1,823,206千円
経常的な費用	1,414,445千円	1,352,120千円	1,298,576千円	1,239,674千円	1,338,741千円

（注）資金合計（※３）には、流動資産（※１：現金預金、未収金、前払金、仮払金、預け金、立替金、前払費用、棚卸資産）及び流動負債（※２：未払金（未払法人税住民税等含む）、前受金、仮受金、預り金、賞与引当金）並びに退職給付引当資産、減価償却引当資産、投資有価証券（額面）を含む。